

特集

おんし

御師の継承

神宮と国民との懸け橋として活動した
伊勢の御師が廃絶して百五十年。
しかしその心は今日に継承されています。

天照大御神の神勅によって天皇の祭祀が継承される皇大神宮。

「吾が児、この宝鏡を視まさむこと、
吾を視るがごとくすべし。ともに床を同
じくし殿を共にして齋鏡と為すべし」
八咫鏡をお祭りする神宮の起源は、遙か
神話に遡ります。天照大御神がその子孫
に宝鏡のお祭りを命じた神勅に遵い、御
歴代の天皇は皇居内でそれをお祭り申し
上げました。

「この神風の伊勢の国は、すなはち常
世の浪の重浪帰する国なり。傍国のうま
し国なり。この国に居らんとおもふ」
さらなる神勅により天照大御神は伊勢に
永くお祭りされることとなり、天照大御
神と御歴代天皇とがこの国を守り栄えさ
せるためのお祭りがここに受け継がれて
います。

御師の誕生

私幣禁断。天照大御神と天皇とが神勅
に基づく祈りで繋がる神宮ですから、そ
こに他者の祈りが入り込むことはできま
せんでした。しかし、その尊い御神威を
仰ぎたい国民の心情は止みがたく、それ
を受けて祈りを執り持ったのが伊勢の御
師と呼ばれる神主たちでした。

御師の誕生は平安末期から鎌倉初期。
その後、戦乱の世を掻い潜りながら活動
を全国に展開。世の安定を得た江戸時代
には全国の国民を神宮へと誘い、伊勢を
日本一の信仰と観光の聖地として確立さ
せました。

御師が展開した主要な活動

① 神宮神徳の宣揚普及

伊勢から遠く離れた津々浦々にまで神
宮の尊さを伝え信仰心を定着させていき
ました。

② 国民の祈願に応じた祈祷

御師の自宅に祈祷所を設けて豪華な神
楽を伴う祈祷を行い人々の願いを大御神
に伝えました。

③ 御祓大麻の授与

祈祷（御祓）を凝らした神札（大麻）
を頒^わち全国の人々が日常身近に神宮の神
徳を仰げるようにしました。

④ 伊勢暦の授与

農耕や漁業の必需品である精確な暦を
頒^わち人々の生活に安定と安心をもたらし
ました。

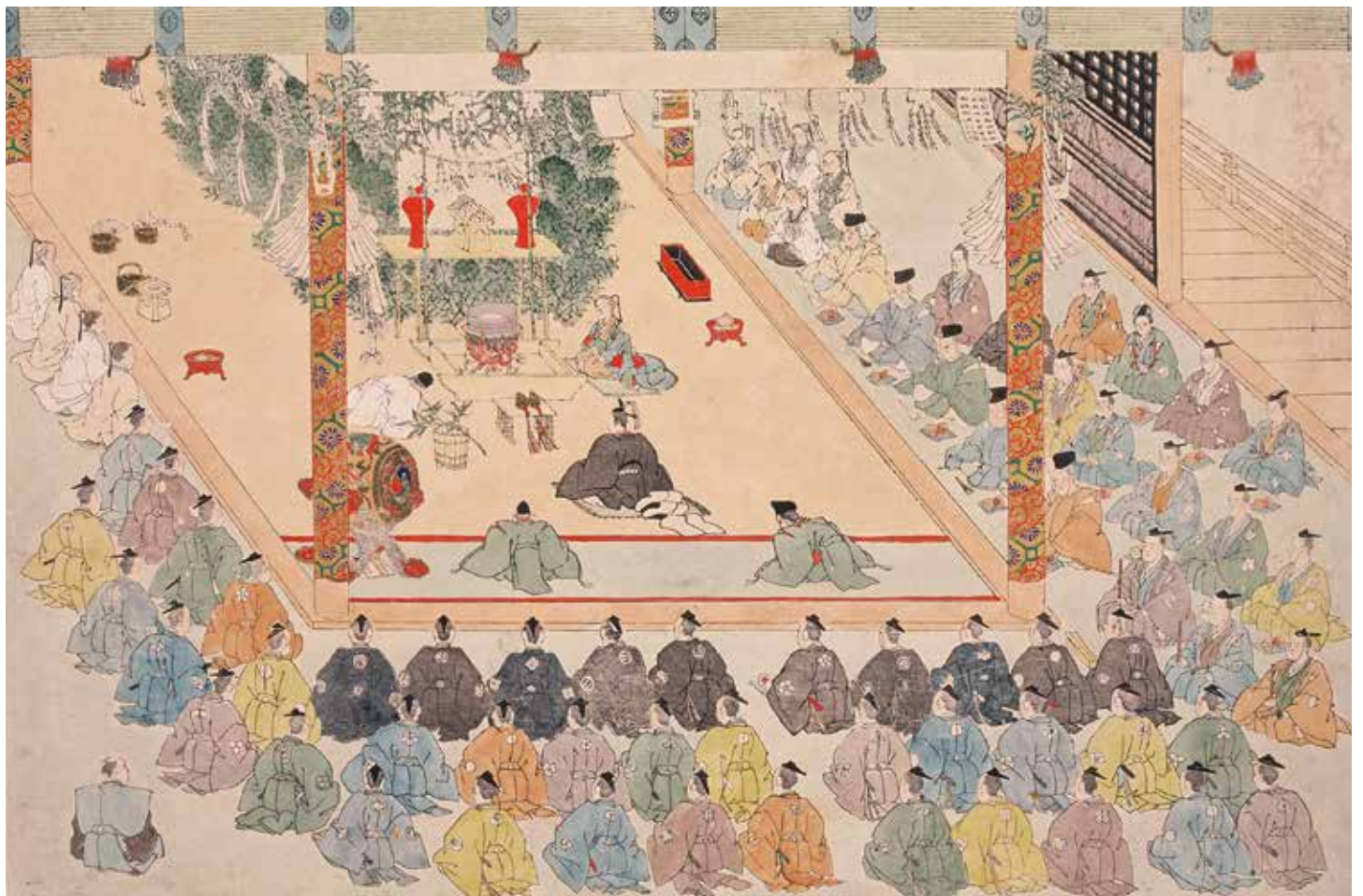
⑤ 伊勢産物の贈答

大御神が「うまし国」と認めた伊勢の
風土の魅力を土産物として全国の人々へ
伝えました。

⑥ 参宮者の宿泊接遇

全国からの参宮者を自宅に宿泊させて
旅の疲れを癒すとともに山海の美味珍味
でもてなしました。

⑦ 参宮の案内



伊勢では御師が豪華な神楽を伴う御祈祷で参宮者の祈りを大御神に伝えました。（伊勢大大御神楽之図）〈神宮徴古館蔵〉

神宮を熟知した御師ならではの丁寧で
適確な案内によって参拝の行程を充実し
たものとなりました。

御師の終焉

このような活動の展開によって江戸時
代後期には全国の約九割にも及ぶ家々に
伊勢の御祓大麻が祭られ、度々起こった
御蔭参りや抜け参りといった爆発的な参
宮の大波も御師の活動があればこそだっ
たのでしょう。

しかし、幕末から明治にかけて日本の
社会は大きな改新を遂げます。その断行
のためには旧来の制度を一旦断絶せざる
を得ませんでした。神宮の制度もまた大
改革を強いられます。神宮祭主から末端
の神主に至るまで神宮の奉仕者はその世
襲を廃止され、新たに国家の官吏として
の神官が任用されることになりました。

これに伴い永く続いた伊勢の御師も歴
史から消え去ることとなりました。明治
四年、今から一五〇年前の事です。

御師の継承

日本の国家制度を一新し、「神社の儀
は国家の宗祀にて一人一家の私有にすべ
きに非ざるは勿論の事に候」と発令した
政府にとって御師の廃止は当然の事でし
たが、それまで御師の恩恵に浴してきた
多くの国民は困惑します。鎌倉時代以来、
信仰の拠り所としてきた御師の大麻や祈
禱などとはもう受けられなくなるのかとい

う不安は大きかったようです。

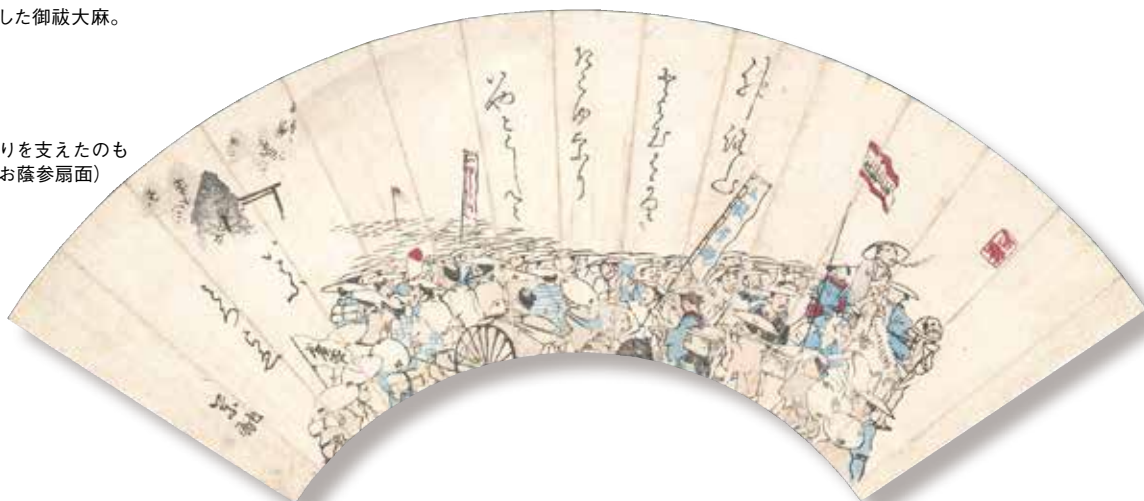
そういった多くの国民の信仰上の要望
を受け、新体制となった神宮が域内に祈
禱所を設けて祈禱を行い、大麻の授与も
継続することとなりました。この祈禱所
が現在の神楽殿となり、御祓大麻は授与
大麻という新たな体裁の大麻として今日
も受けることができます。

鎌倉時代から続く御師の御祓大麻は、
明治の御改正でその名称や体裁は変わ
りましたが、参拝に際しての祈願に
神徳を得るための大麻という趣旨・性格
は御師時代から変わらず新たな授与大麻
に継承されました。授与大麻の正式名称
に「角祓」「剣祓」「守祓」など「祓」の



伊勢の御師が御祈禱によって奉製した御祓大麻。

大規模なお伊勢まいりを支えたのも
御師の活動でした。(お蔭参扇面)
〈神宮徴古館蔵〉





御師が参宮者に提供した御祈祷や大麻・暦などを取り扱う神楽殿（内宮）。

神宮の神徳を宣揚普及し、国民を
伊勢へとつなぐ伊勢神宮崇敬会。



会員制度について

平素は本会の活動に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、令和4年4月1日より会員皆様のお気持ちをより強固なものにするべく、
会員制度の変更をいたします。内容等につきましては下記をご参照ください。
詳しくは次号・ホームページ等で順次ご案内申し上げます。
今後とも更なるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

○変更内容

個人会員（名称変更） ※待遇は変更ありません

【現行】 【令和4年4月1日～】

- ・正会員 → 賛助会員
- ・会 員 → 正会員
- ・準会員 → 会 員

維持会員 ※待遇詳細は順次ご案内いたします

【現行】 【令和4年4月1日～】

- ・1口 10万円（団体・個人） 1口 10万円（団体）／5万円（個人）

名を負うのは前時代に「千度御祓」「剣祓」「守祓」などと称されていた御祓大麻の趣旨・性格を継承したものであることを明らかに示しています。

御師の活動は先にご紹介したように様々なものがありました。

そのうちの①神宮神徳の宣揚普及、②国民の祈願に応じた祈祷、③御祓大麻の授与、④伊勢暦の授与、については明治以降の神宮によって直接行われる事となりましたが、残る⑤伊勢産物の贈答、⑥参宮者の宿泊接遇、⑦参宮の案内、については神宮に継承されるものではなく、一般観光地同様に地元の事業者委ねられることとなりました。

伊勢神宮崇敬会の役割

伊勢神宮崇敬会の始まりは昭和二十八年という新しいものですが、その設立以来、①神宮神徳の宣揚普及を促進するとともに、⑤伊勢産物の贈答、⑥参宮者の宿泊接遇、⑦参宮の案内、といった御師が展開したおもてなしの営みを真心こめて行っています。

今回で第一〇〇号となりましたこの『みもすそ』がその一端をお伝えし、多くの皆様の神宮への崇敬の懸け橋となるよう、今後も精進して参ります。



参宮者に宿泊や食事、伊勢の産物などを提供する神宮会館。